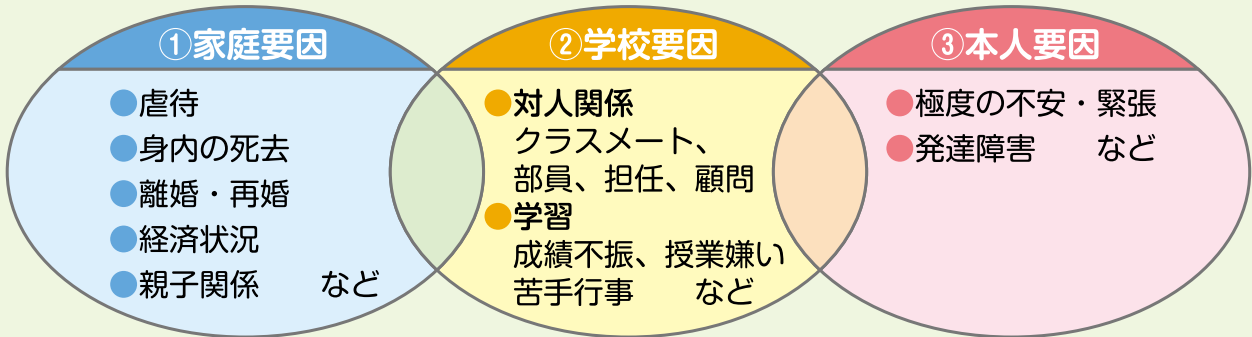


5 不登校の要因

1 不登校のタイプ



不登校であった生徒の意見をみると、不登校のきっかけとして学校要因が多くあげられています。これまでの指導や取組を再度見直し、より工夫改善することで、不登校の予防につながると考えられます。

まず、学校でできることから始めよう！

2 不登校の始まり方

① 急性型

それまで特別な不適應もなく過ごしていた児童生徒が、何かの出来事をきっかけに、急に不適應状態に陥り不登校になるケースです。このようなときは、担任、部活顧問、養護教諭等関わりのある者が急激な変化を敏感にキャッチするとともに、児童生徒の心に共感し、家庭訪問や個人面談、補習等心の負担を軽くする対応を積極的かつ早急に実施する必要があります。

家庭要因

家族との死別や離婚、再婚等、家庭状況の急変による精神的混乱

学校要因

成績の急低下、いじめ、友人とのトラブル

本人要因

思春期の不安や葛藤

対応

- 急激なダメージによりエネルギーが低下している場合、とりえず休養が必要となることもあります。
- できるだけ早く要因を探り、具体的な対応策を考えます。
- 初期対応を適切にすれば、回復も急速に進むことがあります。

② 慢性型

日頃から休みがちだと思っていた児童生徒が、特に大きなきっかけもなく、気づいたら登校できなくなっていたケースです。通常の指導の中で、継続的に学習の遅れへの手だてや人間関係力の育成などの支援を行うことが求められます。

家庭要因

無関心や学校へ行かせないなどの虐待

学校要因

学習の遅れ、人間関係力の弱さ

本人要因

発達障害、無気力

対応

- 気力やコントロールする力が弱いので、必要な支援をしながら少しがんばらせたり体験させたりして力を付けます。
- 本人が拒否しなければ、迎えに行ったり家庭訪問したりすることも有効です。
- 保護者に生活援助の具体的な情報を提供して改善する場合があります。
- 現状を維持しつつ、少しずつ向上していくような継続的な関わりが必要です。